

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」を、令和6年2月～3月に4区（モデル地域4地域）で開催した。

※以下、結果は速報版

1 日時・場所 ※開催日順に記載

- (1) 麻生区 令和6年2月4日（日）14:00～17:00 @麻生区役所4階第1会議室
- (2) 幸 区 令和6年2月10日（土）14:00～17:00 @幸区役所4階第1～4会議室
- (3) 川崎区 令和6年2月17日（土）14:00～17:00 @川崎市役所本庁舎復元棟3階301～303会議室
- (4) 高津区 令和6年3月2日（土）14:00～17:00 @高津区役所4階第1・2会議室

2 参加者数 ※開催日順に記載

- (1) 麻生区 **30名**（無作為抽出者25名、町内会関係者5名）※事前申込は49名、第1回参加者は27名
- (2) 幸 区 **22名**（ " 17名、 " 5名）※ " 43名、 " 27名
- (3) 川崎区 **14名**（ " 11名、 " 3名）※ " 35名、 " 18名
- (4) 高津区 **21名**（ " 17名、 " 4名）※ " 44名、 " 27名

3 第2回の主な内容（4区共通）

- 川崎市からの説明①「第1回ワークショップの振り返り」「モデル地域の状況等について」
- 意見交換①「地域の魅力的な将来像を考えよう」
- 意見交換②「地域の魅力的な将来像を実現するための公共施設の使い方を考えよう」
- 川崎市からの説明②「第3回以降のワークショップで検討する施設について」「今後のワークショップの進め方について」



麻生区



幸区



川崎区



高津区

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

意見交換は、「**ペルソナ**」（架空の人物像）が暮らす地域の「**将来像**」・その実現のための「**公共施設の使い方**」を考える形で実施。
最後に、「**短冊**」（アイデアを一文にしたもの）を作成し、それを基にグループごとに発表。

意見交換の流れ

意見交換①

65分

地域の魅力的な**将来像**を考えよう

20年後の世界に住む人について考える**=ペルソナ**

その人々が暮らす将来の地域についてみんなで考える**=将来像**



中間発表・休憩

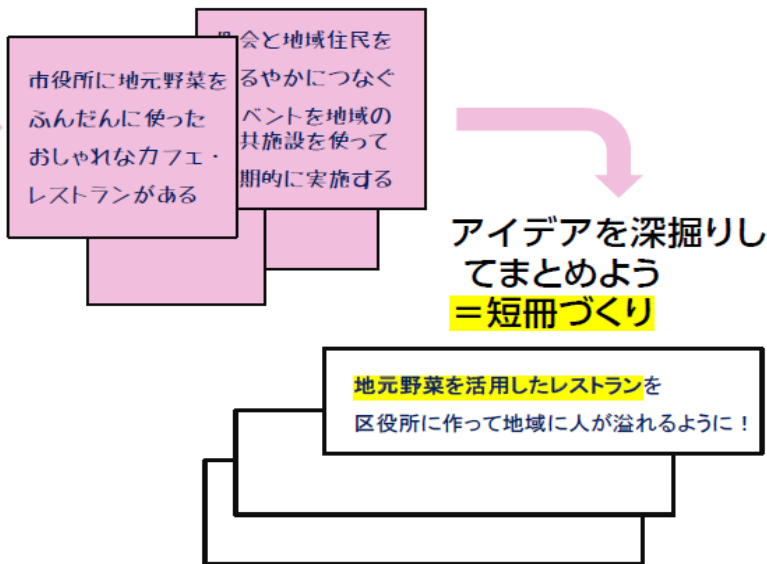
意見交換②

60分

地域の魅力的な将来像を実現するための**公共施設の使い方**を考えよう

将来像の実現のために公共施設がどのように使えとよいか考える**=アイデア**

発表・まとめ



第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」 開催結果

麻生区 5グループで実施し、意見交換後に以下のとおり整理

(地域の将来像、それを実現するための将来の施設の使い方)

- 地域内でのシェア・マッチングや、地元特産品の育成・販売、農業に関する場
- 車等で来てくれる公共施設、団地・農地の活用、多機能な公共施設、施設の利用制限の緩和または廃止、シンボリックな場所

(グループ1)

- ・公共施設を将来的に運営するには小さくて**多機能**で、自由度が高いことが大事
- ・共助のチカラで地域をいきいきと、より元気にする「**なんでもシェア**」
- ・行くのではなく**来てくれる新しい公共施設**。麻生は移動が大事。手段だけの移動から目的となる公共交通へ。ハコモノからコト・サービスを提供する公共施設へ。

(グループ2)

- ・**団地**をリノベーションして新しく建てない。**公共施設として活用**する
- ・ワインや麻生区特産の野菜など、**地元特産品を公共施設を使って販売**して広く皆が知れるように！
- ・施設の**利用年齢制限をとっぱらって**皆が自由に利用できるように！
- ・市街化調整区域の**農地に川崎市主導で公共施設をたてて麻生区を盛り上げよう！**

(グループ3)

- ・アート×大学×農業×起業支援などを**マッチング**できるような機能のある施設で麻生ブランドを育てていく
- ・**麻生ブランドの野菜を育てていく**ために、農地を区（市）が貸しつけて農業を始めやすくする。農地やキャンプ場やグランピングなど宿泊を伴う**農業アミューズメントの場**をつくる
- ・麻生図書館や百合丘2丁目のこども文化センターは老朽化しており建て替えてほしいが、どうせ建てるなら図書館やこ文などの**機能を集約した複合施設**にしてほしい

(グループ4)

- ・**多様な用途が複合した新百合ヶ丘**に行きたいと思える場所
- ・新百合ヶ丘だと分かる**シンボリックな場所**

(グループ6) ※グループ5は欠番

- ・**公共施設の利用制限を緩和**するため、①行政所管の連携、②利用時間の延長、③予約システムの改善などの公共施設の使いやすさ改善を実施する
- ・公共施設のアクセス・利便性を改善するため、バス停、コンビニ、スーパー、ATM、物流などワンストップで利用できる**多機能の場所**になると良い
- ・公共施設で気軽に若い人や子どもが活躍できるようにするため、**消防署の壁面でボルダリングウォールを設置**し身近に感じる＆子どもの教育につながる



意見交換結果の例



短冊（アイデアを一文にしたもの）



全体のまとめ

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

幸区 5グループで実施し、意見交換後に以下のとおり整理

(地域の将来像、それを実現するための将来の施設の使い方)

- 多様なニーズへの対応や集える場としての多摩川エリアや学校・図書館の活用、トレーニングの場の充実
- 公共サービスの集約、民間との連携、既存施設のPR強化、利用時間の延長・利用対象の拡大

(グループ2) ※グループ1は欠番

- ・「JR川崎駅の近くに便利な**公共サービス、施設を集約**する」
- 駅近くの(可変できる自由な)多目的ホール・にぎわいづくりのアクション、改札もセットで回遊性つくる
- ・「働いている人(単身者が少ない)が帰ってきてから使える場所があると良い」
- 公共施設⇄民間施設の境をなくした運用**をしよう→(例)場所を市が借りて市民へ
- ・「市内、区内の様々な**民間企業と協業**した新たな働き方」
- 大学との連携、子どもの体験、コワーキングスペース、国際交流できる働き方
- ・「**多摩川沿い**はおしゃれでゆったり過ごせる場所に」
- 水辺と親和性のあるスポーツ、散歩などのゆっくりした過ごし方→多様な選択肢から選べる

(グループ3)

- ・「困ってる人も助けたい人も**すぐにつながる**ために、マッチングできるしくみがあるまちに」
- ・「高齢になっても安心して、自分らしく生きられるために、**多様なサービスが集約**されたエリアづくりをする」
- ・「今の資源を最大限に活用し、多様なニーズに対応するため、歩いて行ける身近な**学校をよりフレキシブル(時間、空間、目的)に活用**する」

(グループ4)

- ・「**土手が人の憩える場所**になる」
- 水辺にベンチがあるだけでも良い。デートスポットになったり、桜が植えられていたり、馬に乗れるなどのアクティビティがあると良い。
- ・「河原町団地の建替タイミングで、暮らす人も周辺の人も**集える場**になると良い」
 - ・「既存施設をより活用するために、**PRを強化**したり、**企業と連携**を深めたり、多目的化をすることが大切」

(グループ5)

- ・「老人いこいの家の利用時間をもっと遅くまでにして若い人も使えるようにする。**ネーミングも検討が必要**」
- ・「学校開放や老人いこいの家の申し込み方法など、公共施設を借りる場合の方法を明確にして**周知**する」
- ・「市民が気軽に**トレーニングできる場所をもっと増やして**、健康寿命を延ばす」
- ・「施設数は増やさなくてよいので、**利用時間を長くしたり様々な人が使えるようにしていくことが大切**」子どもだけでも集会所が利用できるなど

(グループ6)

- ・**多世代が集まる場**、見守りから集える場「**図書館**をおしゃれなコミュニティカフェに」
- ・**多世代が集まれる場、企業と地域を結ぶ場**が必要…「企業と連携して、教室が開かれる」見守りロボット教室
- ・外から人を呼び込む仕組みとして…「**多摩川エリアを集いの場に**」エリアとしてブランディングする
- ・気軽に出入りできる場所がわからない…「入口に何をやっているのか一目でわかる**シンボル、掲示板**がある」



意見交換結果の例



短冊



全体のまとめ

(アイデアを一文にしたもの)

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

川崎区 3グループで実施し、意見交換後に以下のとおり整理

(地域の将来像、それを実現するための将来の施設の使い方)

- **学校をコミュニティに開放、新旧住民や多国籍、多世代の人達の交流や個人の勉強、運動等の場所**
- **地域等の情報が当たり前知れる環境、施設にもっと入りやすくなる工夫、子どもが預けられる場所の確保**

(グループ1)

- ・ **新旧の住民や、多様な国籍の人たちの交流の場**と機会づくりを目指そう
小中学校の空きスペースを食・スポーツ・音楽の**コミュニティ用**に開放しよう
- ・ **子どもの自由な遊び場**や悩み相談と自立した**高齢者ライフの実現**を目指そう
自立したシニアが遊びを教えてくれる、一緒に謝り行くになど見守りの係員になってくれる遊び場をつくろう
- ・ 集中して**勉強・仕事ができるスペース**がまちにあることを目指そう
小中学校の空きスペース開放（近所にあることが大事）、庁舎やカルッツなどネットで利用状況がわかる仕組みをつくろう
- ・ 若い人たちが地域のイベントなどで地域に関わるきっかけの**情報提供**を目指そう
Peatixと市が協働して地域のイベント情報と出欠がわかる多言語対応のアプリ・システムをつくろう

(グループ2)

いろいろな情報があたり前に知れる環境になる

- ・ チラシの配布方法を変える ・それぞれの公共施設でPCが無料で使えるになる
- 世代をこえて交流**ができる
- ・ 地域の人々が先生になったり、プロアスリートに教えてもらう
- ・ 教えた人はポイントがもらえる ・人とつながれるハブ施設がある
- ・ 一人でも楽しめる ・好きでつながる ・にぎわいがある

各施設がもっと入りやすい工夫がされていると良い

- ・ ドアが大きい ・窓が大きくて中が見える ・誰がいるかわかる
- ・ どんな人が使っているかわかる

公共施設などを土日も開放してほしい！

- ・ 市役所、学校、子育て施設など

(グループ3)

- ・ **様々な世代と一緒に過ごせる、生涯学習の総合的施設**のようなものがあると良い
- ・ **地域の人々が互助的なオンラインサービスでつながっており、リアル支援の際に会場等の支援をする**
- ・ **学校開放は個人でも使えるようにして運動できる場所を増やしコミュニティを育てる**
- ・ **子どもを預けられる場所が近くにあり、子どもが病気の時も安心して仕事ができる**



意見交換結果の例



短冊（アイデアを一文にしたもの）



全体のまとめ

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」 開催結果

高津区 5グループで実施し、意見交換後に以下のとおり整理

(地域の将来像、それを実現するための将来の施設の使い方)

- **ライドシェア、スポーツ・カルチャー等の拠点、スタートアップ企業向け**の場、図書館で**コワーキングスペース**設置
- **地域特化型の情報発信、地域・多世代の交流・連携、空きスペース活用、施設の複合化・多目的化、安全で災害に強い施設**

(グループ1)

パーソナルモビリティの**ライドシェア**拠点

・バリアフリーの充実→移動の充実。パーソナルモビリティのネットワーク化→公園などに落とし込む

地域特化型「**情報発信基地**」

・ミニFM、楽しい・おいしい・防災・防犯のストリーミングTV

「オリエンテッドin高津」マルチ世代による**スポーツ・カルチャー**の交流拠点

・公共施設を使ったマルチ世代交流。興味、趣味のマッチング

(グループ2)

老人向けの施設に限らず、徒歩で行ける施設を**様々な世代が使うようにする**

(こ文や小学校なども老人も使う)

安価な入居費で**スタートアップ企業向け**団地を

・**施設の保全、管理**はしっかりする。地域のお年寄りが仕事として活躍できる場にする。

・小中学校等の施設はきつと余ってくる

地域内の交流イベントに対して**公共施設の貸出**や補助をする

・**地域のつながりづくり**や、老人の外出機会の創出で健康寿命をのばす

(グループ3)

人と出会ったり交流したり出来る場「**ふるさと館**」を**人が行きたくなる拠点**に

・泊まれて宿場体験、楽しく歴史を学べる

夢パークを文化・スポーツ・教養の**中心拠点**にし、近隣小学校とリンクさせ、多世代が活用できるように工夫

単身者、働き世代が使える、喫茶付き**コワーキングスペース**を図書館に

・高津図書館、小黑記念館

規模は減っても、支援が必要な子どものケアサービスは無くさない

・支援学校と福祉サービスの**連携強化**

(グループ4)

高齢者の働くしくみ×**空き家活用**

・障がいのある方の働く場にもなる ・人を紹介するサービス (行政が担う)

・インフラ整備にもなる ・企業と連携をする ・事業にできそう

区役所が複合施設になるとよい

・図書館と統合する ・**多目的化**をする ・飲食できる場所になる ・人の集う場所になる
歩道が広く、**安心して歩けるまち**

・車いす、ベビーカーでも歩きやすい ・学校のなかのバリアフリー化

・屋根がある歩道 ・外出したくなるまち

(グループ5)

まちの**多世代・多属性**コミュニケーションを大切にしよう。既存の**空きスペース (学校、公園、空き店舗)**を有効に活用して、リアル体験を通してコミュニケーションをとる

・家庭菜園、廃材クラフト

ダンス・BMX等の高津で売り出し中のものを中心に、様々なジャンル (音大・クラブ)

同士でコラボしながら、子どもたちへの教育、育成を進めて**聖地化**しよう

MADE in高津を目指して、コミュニケーションから派生したブランド・情報・ビジネスへつなげる。拠点は**多機能**で、子どもが運営に関わることができる

全ての基本として「**安全**」で**災害に強い公共施設**とまちづくりにする

・普段から通っている場所が避難所になる・民間のスペースを使う場合は基準を設ける



意見交換結果の例



短冊 (アイデアを一文にしたもの)

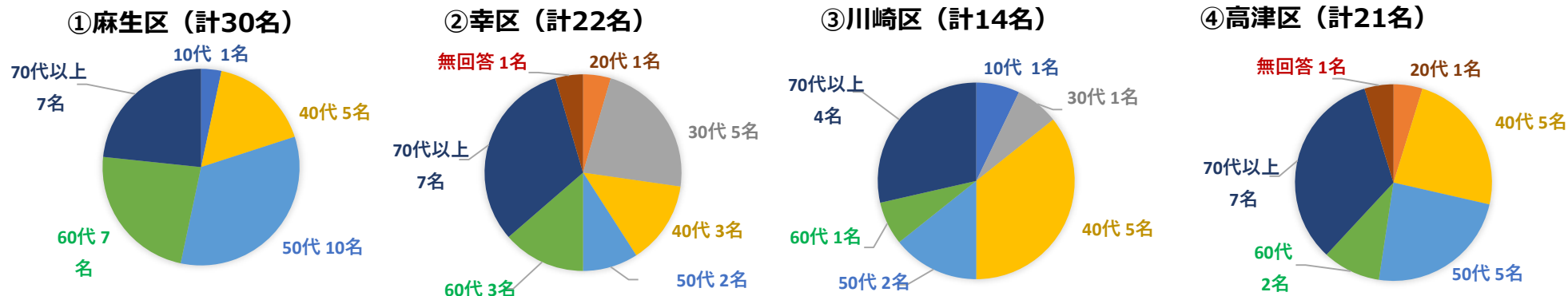


全体のまとめ

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

4 ワークショップ終了後に行った参加者アンケートの結果

(1) 参加者の年代



(2) 今回のワークショップへの参加を決めた理由（複数回答可）

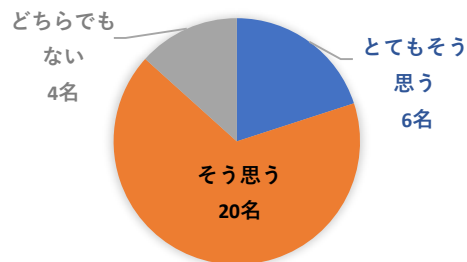
	麻生区 (計30名)	幸区 (計22名)	川崎区 (計14名)	高津区 (計21名)
①第1回のワークショップが楽しかったから	12	8	5	6
②川崎市の資産マネジメントの取組に関心があったから	14	12	5	9
③身近な公共施設の使い方に関心があったから	19	15	10	13
④今回のワークショップの内容が面白そうだったから	9	10	3	4
⑤ワークショップの日程的に、参加できそうだったから	9	9	5	6
⑥謝礼が出るから	3	2	1	1
⑦その他	3	6	2	3

第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

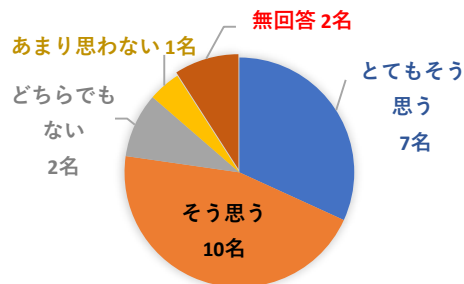
4 ワークショップ終了後に行った参加者アンケートの結果 ※（3）（4）は、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」で回答

（3）第2回ワークショップを通じて、モデル地域のことについて理解できたか

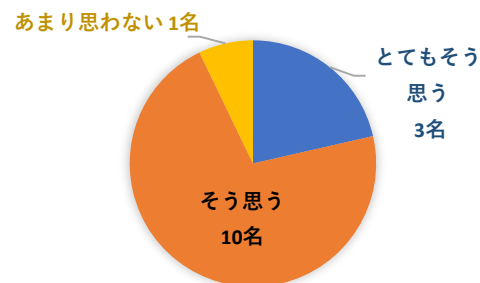
①麻生区（計30名）



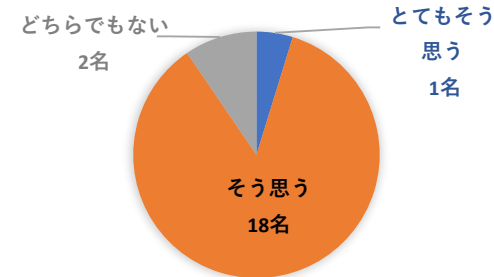
②幸区（計22名）



③川崎区（計14名）

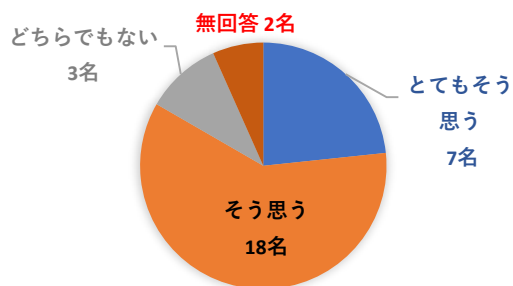


④高津区（計21名）

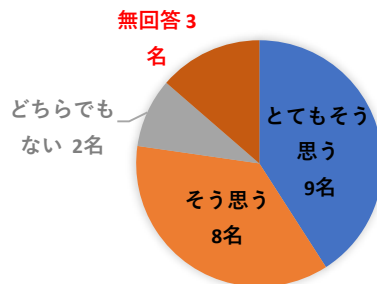


（4）「ペルソナ」を通じ、モデル地域の魅力的な将来像や施設の使い方を考えることができたか

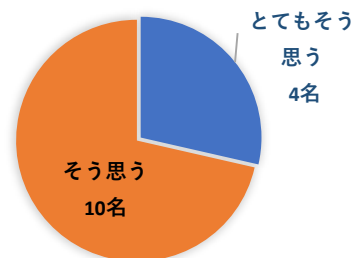
①麻生区（計30名）



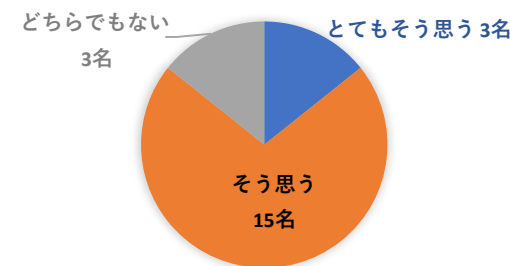
②幸区（計22名）



③川崎区（計14名）



④高津区（計21名）



第2回「地域の公共施設の未来を考えるワークショップ」開催結果

4 ワークショップ終了後に行った参加者アンケートの結果

(5) 参加者からのコメント（一部抜粋）

①麻生区

- あまり普段話することがない世代の人と地域の知らない豆知識についても知ることができた。(10代)
- 限られた種類のペルソナになってしまい、さらに深掘りできなかったが考えのキッカケにはなった。外国人も地域社会の一員なのでその視点も必要。(40代)
- 自分以外の立場に立ってものを考えるのは新鮮でした。(50代)
- 全体の展望が掴みにくかったが、とても勉強になったし面白かった。(50代)
- ペルソナを想定することでより具体化した未来が想定できた。(60代)
- 皆で話をしていて、真剣に考えて未来像が見えました。住み続ける街になれば良いね。(60代)
- 今回のワークショップで、20年後というものを考えることができました。次の世代、その次の世代のことを考えることの大切さを思いました。(70代以上)

③川崎区

- 区や市の人たちがどのようなことを考えて、どのようなことが課題になっているのかが少しだけわかった気がする。自分にとっても良い経験になりそうで、そして自分の住んでいる地域がより良いものになってくれたら嬉しい。(10代)
- 施設利用についてさまざまな工夫がなされていることがわかりました。(30代)
- 回を重ねるごとに具体的な内容になっていくので自分の頭もリアルになっていく。(40代)
- 色々な人がいるということを具体的に考えることができ、何が必要か想像することができた。(40代)
- 当グループは町内会活動の充実についても意見が出た。現状の町会役員としての活動にも活かせるかなと思った。(50代)
- ペルソナを通じて、自分と違う立場や全く異なる人格の立場からの目線で考察するという経験ができた。(60代)
- 第3回は、老朽化施設と施設の活用方法を具体的に考えてみたい。時代時代に合った活用をいかにすべきか。(70代以上)

②幸区

- 様々な立場になって考えることは公共という面から大事だと思う。(20代)
- 悩んでいろいろ考えたり、他の方の意見も聞いたりして、すごく刺激になったし、施設や未来について考えることができた。もっといろんな意見を知りたい。(30代)
- どういうまちになってほしいかをペルソナに重ねて考えられました。(40代)
- 実施設を検討材料にするのはとても良いことだと思います。それが計画に反映されるのだと思うと気が引き締まります。(50代)
- 施設の使い方という切り口は議論が少なかった。(60代)
- 他の方の意見をきいて自分とは違う視点に気づき、とても勉強になった。(70代以上)
- 高齢者になり、これから利用させて頂くことが多いと思う時にこのワークショップに参加することが出来て幸せです。(70代以上)

④高津区

- 「20年後」を考えるのが少し難しかったです。(20代)
- 高津区がどうなると魅力的になるのかみんなで意見をだすことができました。あとはこのワークショップで出たアイデアを実現できるのかとても気になります。実行が大切だと感じました。(40代)
- 今と20年後だと色々変わっている部分もあると思いますが、悩み等は変わらないと思います。その悩みを公共施設を利用して解決する方法はないか、考える良いきっかけになりました。(40代)
- 20年後の高津を想像するところがおもしろかったです。予想もつきませんが、ドラえもん的な何かが実現できるかも…と盛り上がりました。(50代)
- 行政にだけ頼るのではなく、住民レベルからお互いのニーズとシーズを出し合って住みよいイキイキした街創りができると思いました。(60代)
- 道標としてプログラムを作成していただくのは頼もしいですが、誘導型にはならないで欲しいと思う。(70代)
- モデル地域の将来像があいまいな中での議論で限界があった。(70代)

第3回以降のワークショップの進め方について

令和5年度

第2回

モデル地域の魅力的な将来像、その将来像を実現するための施設の使い方を考える

第1回
カワタン実施

令和6年度

第3回

地域内の施設の使い方を考える①

第2回で話し合ったモデル地域の魅力的な将来像等を踏まえ、その実現のために必要な施設の使い方を、具体的な施設を基に考える

第4回

地域内の施設の使い方を考える②

前回に引き続き、具体的な施設を基に考える
※グループごとに第3回とは別の施設について考える予定

第5回

地域内の施設の使い方共有、まとめ

これまでの検討を全体で共有した上で、具体的な施設の使い方を考え、意見をまとめる



第5回終了後、**市民を対象とした成果発表会**を実施
(参加者の制限なし)